

特別企画
1～4面

平成28年（2016年）熊本地震

平成28年4月14日午後9時26分、M6.5。さらに28時間後の4月16日午前1時25分、M7.3。立て続けに、二度も最大震度7の激しい揺れに見舞われた熊本県益木町。一度目の震度7では倒壊や大破を免れた住宅が少なからずあったものの、応急措置を施す間もなく発生した二度目の「本震」によって、古い建物も新しい建物も壊滅的な被害を受けることとなりました。その実態を調査するため、5月末に現地を訪れてきたので、概要をかいつまんで報告します。

（かながわ住まいまちづくり協会事業部長・井上憲司）



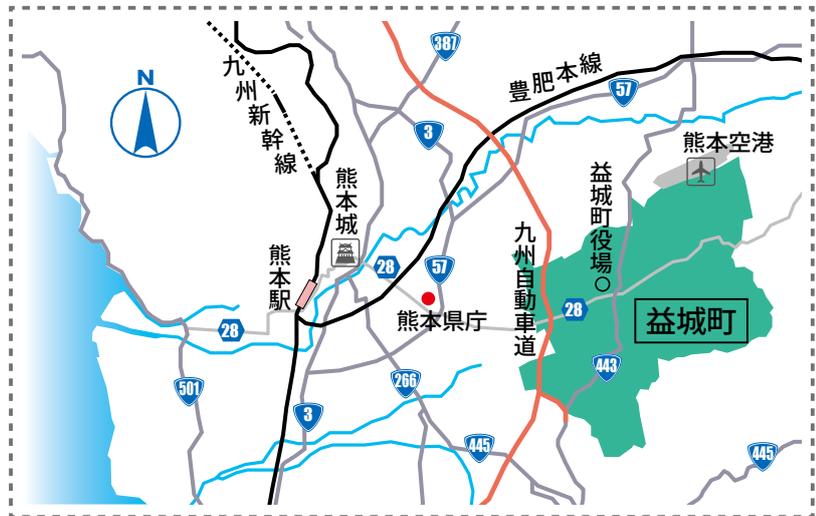
二度にわたって 震度7に見舞われたまちを視察

視察は5月29日の午後に熊本市入りし、あいにくの悪天候のなか、熊本城や中心市街地の被災建物を見て回りました。

翌日は天候も回復し、熊本市災害ボランティアセンターが設置されたバスターミナルから路線バスで、熊本市と益城町の境の九州自動車道路の地点まで行って下車。そこから徒歩で、被害が集中した益城町の市街地を6時間かけて視察しました。

県道28号線のバス通り沿いを行くと福富、惣領、馬水、安永、宮園、木山、寺迫地区などの住宅地があります。このエリアは周辺に町役場や学校などの公共施設、店舗・サービス施設などが集積し、人通りも多く、市民生活の中心的な場所でしたが、今回の熊本地震で特に甚大な被害を受けました。

（2面へ続く）



インデックス

1-4面：特別企画 平成28年（2016年）熊本地震

●建物被害の状況 …2～3面

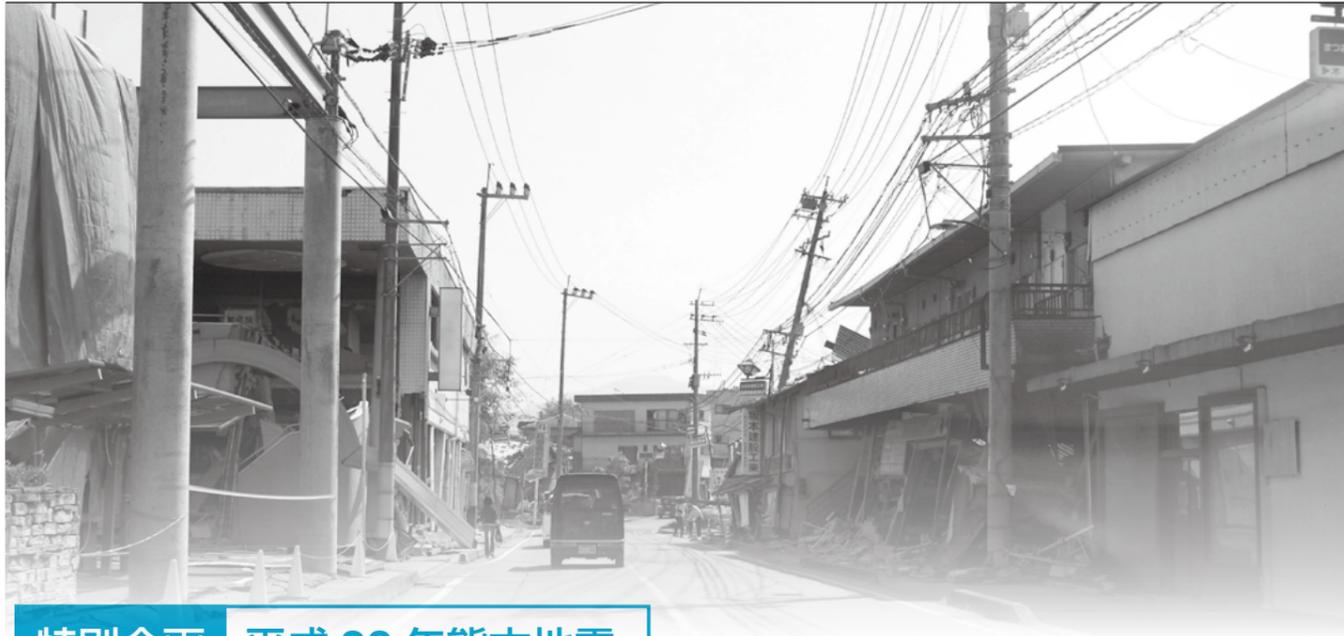
●追伸・仮設住宅の建設 …4面

5面：災害対策でイベント続々

6-7面：TOPIC / 事務局だより

8面：住宅地探訪 あの街は今…

/ 其の十 開成金井島・小川と草葺のある里



特別企画 平成28年熊本地震

町の情報によると、5月31日時点で把握されていた益城町における建物被害は、全壊が2,304棟、半壊が2,448棟、一部損壊が5,207棟。町内の8割の建物に損傷が認められたということで、現地で次から次へと倒壊した建物に遭遇するたびに、愕然とさせられました。

布田川断層帯に近いエリアでは木造民家の被害が最も多く、瓦屋根の古い建物の倒壊が目立ちました。が、それだけにとどまらず、一部の新しい家屋でも、1階が押しつぶされるなど大きな被害を受けたケースが少なくありませんでした。震度6～7の揺れを複数回受け、地盤が弱い地域に被害が集中しているように思われました。

また益城町には、時間の都合で行けなかったのですが、70

歳以上の高齢者が120世帯暮らしている東無田集落があります。ここでは農家の8割が全半壊し、田んぼの地割れや農水路ポンプの復興に1年以上を要する壊滅的な被害を受けたといえます。

訪れた5月末の時点で、幹線道路に面して車両の通行を阻害するような建物の解体・撤去はそこそこ行われていたましたが、一步、裏通りに入れば、ほとんど手つかずの状態。被災した多くの町民は町営体育館などの避難所に一時的に避難し、この時点でも駐車場で車内生活を送ったり、自宅敷地のテントやビニールハウス、納屋、コンテナなどで寝泊まりしている人々を多く見かけました。未だ治まらない余震の恐怖や生活再建への不安を抱えながら、懸命に復興の足掛かりを模索している人々の姿が印象的でした。

▶ 在来工法による伝統的な木造家屋



比較的新しい年代に建てられたとみられる住宅



◀ コンクリート壁はがれ落ちた商業施設



建物被害の状況

一帯が激しい揺れに襲われたことが見て取れる街区だが、倒壊の方向は一律ではない

倒れた塀などの瓦礫で水路が埋まり、降雨時の二次災害も懸念された



上階が横滑りしたものの、建物脇のキャンピングカーが支えとなり、全体が横倒しになるのは避けられたようだ



▲ 瓦屋根ながら、倒壊は免れた平屋住宅





特別企画 平成28年熊本地震

〈追伸〉

被災から三カ月が経過し、被災者の念願の仮設住宅の建設も進み、益城町には阿蘇くまもと空港に近い工業団地造成地に、516戸の「益城町テクノ団地」が完成しました。益城町では全半壊が5,000戸に達し、町内10個所で計1,200戸の仮設住宅の建設を計画しています。復興への一歩を避難所生活から仮設住宅に踏み出した人々がいる一方で、熊本市内のアパートや市外へ引っ越し住民も増えており、益城町は人口流出という新たな問題とも向き合っています。

熊本地震で必要な仮設住宅の建設戸数は、全体で約3,600戸と言われており、2016年8月1日現在、24団地で約800戸が完成しています。

熊本市の南に位置し、熊本湾、八代海に面した宇城市では、地域材の杉材を活用して、木造軸組工法の平屋建て仮設住宅を松橋町当尾グラウンドに建設。このほど完成した二期工事分＝写真＝は13棟44戸で、住戸タイプが6坪(1DK)、9坪(2DK)、12坪(3K)の3つあり、7:11:4の比率で割り振られ、収容規模は108人ということです。一期分は既に30戸が完成し、75人を収容しています。

被災した地域住民にとって、近隣住民同士が住み慣れた愛着のある木造仮設住宅団地で一緒に生活が送れることが、どれほど心強く、安らぎを与えてくれるのでしょうか。地産地消の経済効果も含め、迅速な再生の道を切り開く転機となることを期待したいと思います。



一般社団法人神奈川建築士事務所協会
40周年記念事業
仮設住宅計画コンペティション

未来に生きる
仮設住宅を問う



8月6日、湯河原町で開かれた「アイディアソン&ハッカソン大会」の様子⑤と、グループごとにコメントやスケッチがまとめられた模造紙の例④

月6日(土)、湯河原町町民体育館にて開かれました。参加者は建築士のほか、建設・造園業、材料メーカー、検査機関、行政職員、消防・福祉関係者、大学生など160名。これを8名ずつグループ分けし、20テーブルにおいて、それぞれ仮設住宅のアイデアを出し合いました。

会場には、熊本地震の被災状況や東日本大震災の復興状況のパネルなども展示され、各人が災害の現状を確認しながら、「仮設住宅に対して私たちに何が出来るか」を自問自答し、イメージを膨らませる上で大いに役立つようでした。グループ毎に用意された白紙の模造紙は、仮設住宅や避難生活に対するコメント、スケッチで、どれも空白なく埋め尽くされていました。その後の発表会ではグループ全員が壇上に立ち、成果をスクリーンに映し出して相互のアイデアを讃え合いました。

コンペは今後、アイディアソン&ハッカソン大会で議論された内容や提言等を踏まえ、応募者は10月1日までに作品を提出。同6日(木)～10日(月)の作品展示およびweb掲載による一般投票、その後、専門家による一次・二次審査を経て、2017年1月27日(金)に結果発表と表彰式が行われるスケジュールとなっています。

アイデア練るワークショップに160人参加

ことし設立40周年を迎える神奈川県建築士事務所協会が、記念事業として災害時の仮設住宅のコンペを開催しています。

キャッチフレーズは「未来に生きる仮設住宅を問う」で、2012-2013年に行った「リアリティーのある応急仮設住宅の提案」に続く第二弾の企画。今回は建築技術者や学生のみならず、関心のあるさまざまな立場の人たちを集めて、ともに検討をしてアイデアを具体化するというワークショップの手法を取り入れているのが大きな特徴です。

この「アイディアソン&ハッカソン大会」は、2016年8

備えていますか？ 住まいの地震対策

熊本地震の教訓

住まいの耐震改修のポイントや大地震への備えなどを学ぶ講座のほか、木造住宅の耐震モデルの模型や熊本地震の写真パネルの展示等を行います。

- 9月4日(日) 10:00～16:00
開成町／開成幼稚園広域避難所
(南部コミュニティセンター体育室)
- 9月25日(日) 9:30～11:30
寒川町／一之宮小学校・体育館
- 10月23日(日) 8:00～11:15
愛川町／ふるさとまつりテント

どこに住んでいても
油断大敵



神奈川県
耐震セミナー

主催

開成町、寒川町、愛川町、神奈川県
(公社)かながわ住まいまちづくり協会

Topics

5年目を迎えた省エネの技術講習会

神奈川では年間 1000 人程度の受講者

わが国では、現在、省エネルギーの視点に立った低炭素型の社会づくりが国策として掲げられています。中でも早急に取り組まなければならない民間部門のエネルギー対策として、住宅分野における新築住宅・建築物の段階的な省エネルギー基準への適合化が進められており（平成32年度までに100%達成することが目標）、住宅の設計や施工に関わる技術者にもそのための適正な技術習得が求められています。

一方、大きな課題としてあげられることは、住宅の生産に携わる主体としての中小工務店や大工への周知が徹底して行われる必要があることです。

こうした中、国土交通省では、省エネ基準に則った設計住宅の性能評価のための計算方法の習得と同時に、設計どおりの性能を発揮させるための施工技術の習得を促進することを目的に、都道府県単位での住宅省エネルギー施工技術者講習会および設計者講習会の開催を後押ししています。

今年5年目を迎える本講習会の受講者は、まもなく全国で約10万人を突破する見通し。神奈川県における開催は、



テキストによる教習に加え、断熱施工模型を用いて具体的に分かりやすく解説



建設、設計、不動産、森林・木材業関係団体と県の県土整備局、環境農政局内で構成される神奈川県住宅・建築関係事業者支援協議会（事務局・かながわ住まいまちづくり協

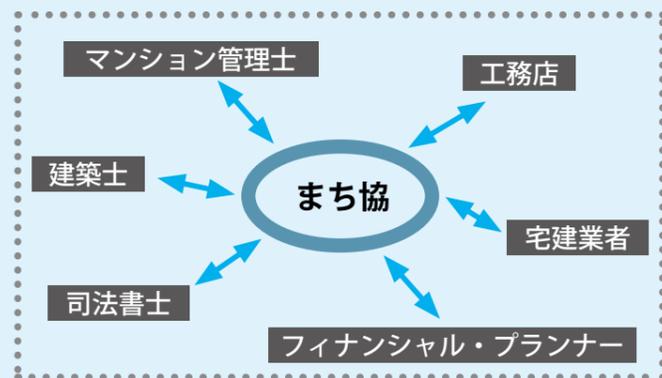
まち協住まいの相談室 の開設（本年12月までの予定）

かながわ住まいまちづくり協会では、広く住まいに関する相談をお受けする住まいの相談室を開設しましたので、ぜひご利用ください。

《相談内容》

- リフォーム、建替え
- マンション管理・大規模修繕
- 資金計画
- 空き家の利活用
- その他

《相談体制》



ご相談は、かながわ住まいまちづくり協会に電話又はファックスで予約いただき、日程等を調整のうえ、窓口で専門家が対応します。

最初の窓口相談（1時間程度）は無料ですが、2回目以降の相談等については一部ご負担いただきます。

受付：公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会 ☎ 045-664-6896 Fax 045-664-9356

会）が担い、今年度も1000人程度の受講者を見込んでいます。

今年度の実施予定は、次表のとおりで、各定員50名。開催時間は「施工技術者向け」「設計者向け」とも9:30～17:00で、講義の終了後に終了考査を行い、合格者には修了証が発行されます。受講料は1000円（修了証の発行手数料は別）。問い合わせは、かながわ住まいまちづくり協会 ☎ 045 (664) 6896 へ。

■住宅省エネルギー施工技術講習会

会場	開催日
《横浜 A 会場》 神奈川県建設会館	2016年9月13日（火）、11月14日（月）、12月14日（水） 2017年1月17日（火）、2月1日（水）
《横浜 B 会場》 建設プラザかながわ	2016年12月25日（日）
《川崎会場》 サンピアンかわさき	2016年11月20日（日）
《相模原 A 会場》 ユニコムプラザさがみはら	2016年10月24日（月）
《相模原 B 会場》 相模原市民会館	2016年11月3日（木祝）
《横三会場》 三浦建築高等職業訓練校	2016年11月27日（日）
《県央会場》 綾瀬市立中央公民館	2016年9月18日（日）
《湘南会場》 湘央建設組合	2017年1月29日（日）

■住宅省エネルギー技術講習会（設計者向け）

会場	開催日
《横浜会場》 神奈川県建設会館	2016年9月15日（木）、9月30日（金）、12月20日（火） 2017年1月25日（水）
《湘南会場》 平塚市民センター	2016年10月14日（金）

※ 会場が追加される場合もありますので、全国版の「住宅省エネルギー技術講習会」ホームページ (<http://www.shoene.org/>) も参考にしてください。

まち協・事務局だより

◆平成28年度地域型住宅グリーン化事業採択グループが発表されました

地域型住宅グリーン化事業は、地域における木造住宅生産体制を強化し、環境負荷の低減を図るため工務店等が木材、建材流通等の関連事業者と連携して、省エネルギー性能や耐久性等に優れた木造住宅・建築物の整備やこれと併せて行う三世帯同居への対応等に対して、国が建設費の一部を補助するもので、次のような効果も期待されています。

- ①地域の中小住宅生産者等が供給する住宅に関する消費者の信頼性の向上
- ②関連産業の多い、地域の木造住宅市場の振興による地域経済の活性化
- ③地域の住文化の継承及び街並みの整備
- ④地域の林業・木材産業関連事業者と住宅生産関連事業者との連携構築を通じた、木材自給率の向上及び森林・林業の再生
- ⑤住宅の省エネルギー化に向けた技術力の向上
- ⑥子育てを家族で支え合える三世帯同居など複数世帯の同居しやすい環境づくり

今年度は全国で784グループ（平成27年度は665グループ）、神奈川県内では23グループ（平成27年度は19グループ）が採択されており、同事業のホームページ (<http://chiiki-grn.jp/>) でご確認ください。

まち協では、採択グループが神奈川県内で建設した対象住宅の交付申請を行う際の申請受付窓口になっており、補助金交付の要件を満たしているかどうかの適合確認業務を行っています。

また、採択グループに対しては、今年度から受講が必須要件となった住宅省エネルギー技術講習会に関する情報その他の情報を提供するなどの支援も併せて行っています。

◆定時社員総会を6月に行いました

公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会の平成28年度定時社員総会が、2016年6月16日（木）、横浜市中区の神奈川県建設会館2階講堂で行われました。この日承認された平成27年度の事業報告や決算書は、ホームページで情報公開しています。



住まいとまちづくり VOL.29

2016年9月1日発行

発行／公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会

〒231-0011 横浜市中区太田町2-22 神奈川県建設会館4階

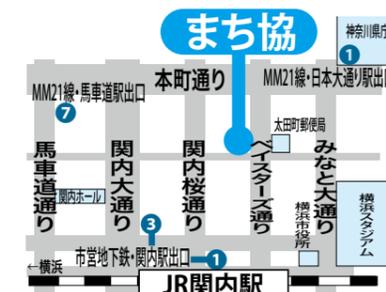
☎ 045-664-6896 FAX 045-664-9359

<http://www.machikyo.or.jp/>

E-mail admin@machikyo.or.jp

発行人／寶積 泰之

編集責任者／塚田 操六



JR根岸線・関内駅北口、南口から徒歩5分
横浜市営地下鉄・関内駅1番、3番出口から徒歩5分
みなとみらい線・日本大通り駅1番出口から徒歩5分
みなとみらい線・馬車道駅7番出口から徒歩10分

横浜メディア・ビジネスセンター隣

魅力ある住宅地を維持するには、何が必要なのでしょう。県内の緑豊かな住宅街や霧田気の良い商店街のたたずまいを記録した「かながわのまちなみ100選」が発行されたのが1987年。4半世紀が経った今もなお、魅力ある住宅地に隠されたヒントを見つけに、カメラ片手にルポして回ります。

其の十 開成金井島・小川と草葺のある里

開成町の金井島地区は酒匂川流域の扇状地に形成された水田地帯。丹沢や箱根外輪山などを背にしたなだらかな地形で見晴らしが良く、豊かで澄明を誇る小川や茅葺きの古民家が少なからず残っていました。そんな、野趣あふれるふるさとの風情が「まちなみ100選」に選ばれたものです。



「まちなみ100選」で紹介されたふるさとの景観＝写真⑩（＝出典：かながわのまちなみ100選）＝は、実はこの

当時、既に失われつつある運命にありました。というのも開成町では農作業の効率化や生産性の向上を図るため、1978年から「ほ場整備」が実施され、水田・畑・農道や用排水路が整然とつくられていったのです。

そこで、田園地帯に新たな魅力を創出するシンボルとして、目が向けられたのが「あじさい」です。1983年から農道や水路沿いに約5000株が植栽され、住民らの手で大事に育てられる中、今では花の時期ともなれば、田植え直後の緑の「絨毯」を囲んで、色とりどりのアジサイが咲き誇り、多数の見物人が訪れる名所となっています。一方、趣きのある昔ながらの茅葺き民家も、時代の趨勢でその数を減らしていきました（「100選」の写真に写る建物も建て替わっていました）。

しかし、21世紀に入って一つの幸運なできごとが舞い込みます。金井島地区で築300年の歴史を有する名主の館が持ち主の好意で町に寄贈され、復元等の整備を経て、2005年から「あしがり郷瀬戸屋敷」として一般公開されることとなりました。

また、この保存活用の取り組みに刺激を受けてか、瀬戸屋敷のすぐそばに残されていた茅葺き民家を借り、コミュニティガーデンを運営するNPOも現れるなど、町の拠点整備構想と相まって、後世につなぐ「あしがり郷、づくりはいろいろと広がりを見せています。

あじさいの里



17畝に及ぶ「あじさいの里」では、見物人の増加を受け、1988年から6月上旬に開成町あじさいまつりを開催。休憩所となる公園やステージイベントが繰り広げられる舞台棟なども整備されたほか、今では近接するあしがり郷瀬戸屋敷、岡野地区のあじさいや南足柄市のハナアオイまつりとも連動し、年々華やかさを増しています。

あしがり郷 瀬戸屋敷



古民家見学のみならず、雑祭り、端午の節句、七夕、十五夜などの年中行事に合わせた展示や、生涯学習講座、紙芝居、映画会、コンサートなどの会場としても活用され、地域住民の交流や文化の発信を担う拠点として位置づけられています。休園日は毎週月曜（祝日の場合は開園、翌日休み）と年末年始。開園時間は10:00～17:00。☎ 0465-84-0050



古民家ガーデン [紋蔵]



NPO すずろ（畠山光子理事長）が運営する紋蔵（もんぞう）は、着物のリサイクルや染め物などのワークショップを営みつつ、地元の催しに合わせて物販や喫茶スペースを提供したり、レンタサイクルの貸し出し所としてひと役買っています。イベント時以外の開業日は、不定期。☎ 0465-44-4151。

写真右端の志澤晴彦さんは、この地の雄大な景観と環境に惚れ込むあまり、紋蔵で住み込みの管理人を務めるようになったそう。紋蔵の案内のほか、地域に残された古民家の情報収集にも熱意を燃やしています。